

力を入れていきます!

「ICT」を使って、楽々・安定稲づくり

倉敷地方稲作研究会(倉敷市・総社市)

インターネットや各種センサーを利用して情報を得ることができるICT(情報通信技術)を活用した稲づくりを勧めています。特に、大規模経営では、大幅な省力化や安定生産を図ることができます。例として、水田の地力に応じて施肥量を自動調整できる可変施肥田植機、水田の水位をスマートフォンで確認できる水田センサー、水田ごとの作業状況などをパソコンやスマートフォンで管理できるほ場管理システムなど、これからの稲作は大きく変わりつつあります。



可変施肥田植機



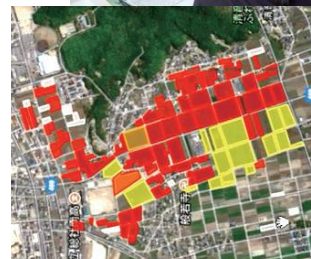
可変施肥区



倒伏した慣行区



水田センサー



ほ場管理システム

組織化の強みを活かして、さらなる経営安定を目指す

吉備路水田農業大規模経営体ネットワーク(倉敷市・総社市)

平成25年度に結成された吉備路ネットワークの活動も今年で5年目となりました。定例会や最新機械の実演等で、会員相互の情報交換が活発に行われ、作業受委託や機械賃借の取り組みが自主的に進んでいます。その結果、個別経営体では取り組みにくいWCSやSGS等の飼料用稲も組織の強みを活かした生産が定着し、会員の所得向上に役立っています。普及指導センターでは会員が求める情報を素早く提供し、各経営体の持ち味を活かした営農活動を支援しています。



総会(4月)



最新機械の実演



稲WCSの生産

カ 入れています!

水稻の密播育苗にチャレンジ!!

(農)上楨谷営農組合(総社市)

(農)上楨谷営農組合では、水稻密播育苗にチャレンジしました。密播育苗とは、育苗箱当たりの播種量を通常の約2倍に増やし、移植時の苗のかき取り量を減らすことで、10a当たりの使用箱数を減らす技術です。通常10a当たり16枚程度の育苗箱が必要ですが、今回の実証試験では10a当たり8枚程度に減り、苗の運搬回数を削減でき、田植え作業が省力・低コスト化できました。収量は10aあたり約480kgと慣行と同等の収量となりました。省力化技術として興味を持っている生産者が多いことから、吉備路水田農業大規模経営体ネットワークでも密播育苗技術についての情報共有を図っていきます。



播種作業



播種量の違い
(上:密播、下:慣行)



田植えの実演会

美味しい「シャインマスカット」を生産するために!

JA岡山西玉島北園芸協会ぶどう部会、JA岡山西船穂町ぶどう部会、JA岡山西真備ぶどう生産組合、秦果樹生産出荷組合(倉敷市、総社市)

「シャインマスカット」は全国的に生産量が増え産地間競争が激化しており、高品質生産が求められています。管内ではハウス栽培が多いですが、7月頃の出荷を目指すハウス栽培では、梅雨期に日照時間が減少し糖度が上昇しにくくなるのが課題です。そこで安定して高糖度生産を行うため、反射マルチの効果をも3か所で検討しました。

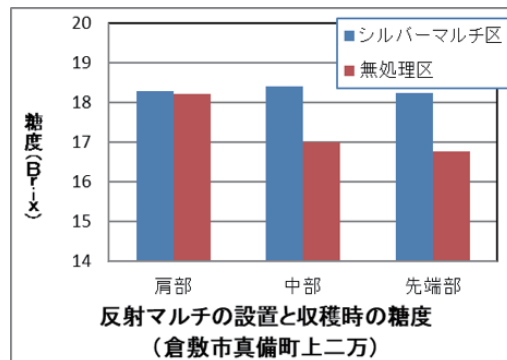
果粒軟化期にマルチを敷設した結果、糖度が上がりにくい房の先端部において、マルチ設置区で糖度が高くなる傾向が認められました。低糖度果粒が少なくなることから、食味が安定し出荷時期も遅れにくくなるため、有効であると考えられました。



反射マルチの設置状況
(倉敷市玉島八島)



マルチの設置状況
(総社市秦)



力を入れていきます!

GI「連島ごぼう」がんばっています!

JA倉敷かさや東部出荷組合(倉敷市)

「連島ごぼう」は、倉敷市南部の砂地畑で栽培されている「白肌の長いごぼう」です。産地では「地理的表示(G I)保護制度」登録(平成28.12)を契機に、一層の安定供給とPR活動に取り組んでいます。普及指導センターでは、地元小学校での食育活動や高品質な「連島ごぼう」が安定生産できるように連作障害対策や周年出荷に向けた取り組みを支援しています。



目合わせ会で品質をチェック!



地元直売所でも「連島ごぼう」は大人気!

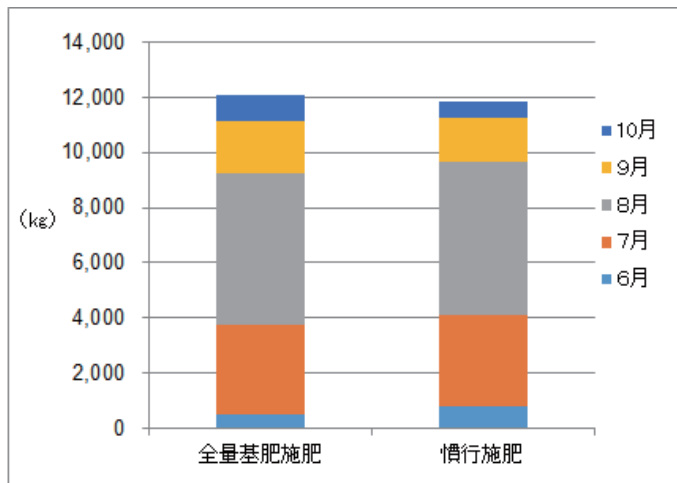


地元小学校での食育授業

夏秋なす栽培で省力化を実証しています

吉備路夏秋ナス生産出荷組合(総社市、倉敷市)

夏秋なす栽培では、3～4月に基肥を施用した後、8月頃から追肥を数回行っていきます。しかし、この施肥体系は出荷量が多く、整枝作業が忙しい時期に追肥作業があり、省力化が望まれていました。生育後半に肥料が切れなような全量基肥体系を実証したところ、全量基肥施肥は慣行施肥と同等の収量となりました。今後は、省力的な施肥方法として全量基肥施肥技術の普及を図るとともに、整枝管理を徹底し収量向上を目指します。



施肥の違いによる10a当たりの月別収量



全量基肥施肥の生育(9/11)

天敵を上手に活用!減農薬のいちご栽培

倉敷地方施設いちご研究会(倉敷市、総社市)

いちご栽培では、収穫時期に発生するハダニ類に対して使用可能な農薬が限られ、体系的な防除が困難です。研究会では、従来から天敵を利用した防除を行っていましたが、安定した効果を得るためには天敵の定着を安定させることが大切です。そこで今年から、天敵の定着率が高い新たな天敵製剤「バンカーシート」を用いて実証しています。安全安心な美味しいいちご生産に向けて天敵の働きに期待しています。



バンカーシートの設置

スイートピー産地の明日を担う新規就農者の支援

～早期経営安定をめざして～

JA岡山西船穂町花き部会(倉敷市)

J A 岡山西船穂町花き部会は、新規就農者を積極的に確保し、産地を維持してきました。新規就農者の経営の安定化を図るためには、生産技術、経営管理両面での資質向上が必要になります。近年、気象変動により安定生産が難しくなっていることから、草勢管理研修会や草勢把握実証ほなどを活用して、新規就農者の生産安定を図っています。また、管理作業のポイントを押さえた動画資料を作成することにより作業のマニュアル化を継続して進め、新規就農者が雇用者に分かりやすい指示ができるように努めています。



草勢管理研修会



動画による作業手順の説明